

企業・職域向け認知症サポーター養成講座 事例 DVD の活用について

【金融機関編、スーパーマーケット編、交通機関編、マンション管理編、訪問業務編】

現在、全国で約200万人養成されている企業・職域サポーターは、認知症または認知症が疑われる顧客等へ適切な対応をすることで、地域の見守り役・支援者としての役割をはたしています。

同時に、生活に密着した職種の企業・職域団体では、業務上の対応困難事例のうち、その原因が認知症と考えられるケースへの対策が急務となっています。

標記事例 DVD は、業務形態ごとに想定される事例を題材に、受講者が認知症との関連を踏まえ、適切な対応法を検討し、その後の業務に即時生かすことができるように対応のポイントを習得できる構成となっています。

ぜひ、該当する職種の認知症サポーター養成講座では、認知症の基礎知識の講義後、この DVD 教材を用い、グループワーク形式の討議、ロールプレイング発表により、受講者参加型のカリキュラムを組んでくださいますようお願いいたします。

企業・職域団体対象認知症サポーター養成講座 カリキュラム例 (90分)

内 容	時間配分	備 考
●認知症サポーターキャラバンとは	15分	「認知症サポーターキャラバン」キャンペーン DVD 使用。
●認知症を理解する (講義)	30分	『認知症サポーター養成講座標準教材・認知症を学び地域で支えよう』(4～21 ページ) ※対応の基本は認知症の正しい理解から。認知症の基礎知識については、少なくとも30分は確保する。
●認知症サポーターのできること 接客場面等を通して認知症の人への対応 の仕方を学ぶ (実技)	45分	事例映像を題材に「悪い対応」「望ましい対応」のポイント及び自分たちであればどのような対応をするかをグループ討議し、発表。

■企業・職域団体向け認知症サポーター養成講座 事例 DVD の構成

①認知症の人への接し方

→『認知症サポーター養成講座標準教材・認知症を学び地域で支えよう』で学習した認知症の人への接し方を、もう一度確認。

②悪い対応事例

→悪い対応例を題材に、認知症のお客さまにはどのように対応したらよいか考えます。

③望ましい対応事例

→望ましい対応のヒントとなる一例を紹介します。

④接し方のアドバイス

→山口晴保先生 (群馬大学名誉教授) が接し方のポイントを解説。



小売業でのサポーター講座・グループワークの様子

事例映像を題材に、映像の「悪い対応」「望ましい対応」は、それぞれ具体的にどの部分がよくなかったのか、どこがよかったのか及び自分たちが考える「望ましい対応」をグループワーク討議し、グループごとのロールプレイ発表後、キャラバン・メイトが講評を行うことを想定しています。

※活用にあたっての詳細、留意点等は、同封している「活用ガイド」に掲載しています。